

所長あいさつ

和歌山県教育センター学びの丘ウェブページにアクセスいただきありがとうございます。

今日は、変化が激しく先行きが不透明で将来の予測が困難な時代であるといわれています。このような中、一人一人のこどもが自分のよさや可能性を認識しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」となれるようにすることが求められています。



そのためには、基礎的な知識や技能を習得するだけでなく、こどもが自ら学びに向かい、様々な価値観をもつ人々と触れ合いながら自分なりの「納得解」「最適解」を生み出す力、さらには、疑問や課題意識をもち「自ら問いをつくる力」を培うことが大切になると考えます。このようなこどもの姿を実現するために、「授業観・学習観」の転換を図るとともに、私たち教育に携わる者も学びの転換（「研修観」の転換）を目指すことが必要です。

令和4年12月に出席した中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」では、「これからの時代には、日本社会に根差したウェルビーイングについて考察しつつ、教師自らが問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びを、研修実施者及び教師自らがデザインしていくことが必要になる。」と示されています。研修実施者である当センターとしても、変化は、成長・発展のチャンスと捉え、変化を前向きに受け止め、「研修観」の転換に向けて職員一人一人が問いを立て、研鑽を積んでいきたいと考えています。そして、これまで当センターが培ってきた知見や使命である「不易」に、時代や社会が要請している「流行」を取り入れながら、これから求められる当センターの「不易」を探究してまいります。

当センターでは、本年度も研修と研究開発の2つの柱を基に、既存の取組を省察しながら、新規事業も含めて様々な事業を行ってまいります。当センターは、すべての事業において、市町村教育委員会、学校関係の皆様をはじめ、様々な方々と連携しながら、学びの「伴走者」となれるよう全力を尽くしてまいります。つきましては、当センターの施設や教育資源を十分に活用していただくとともに、ともに学びを深めていけることを心から願っております。本年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年4月

和歌山県教育センター学びの丘
所長 福田 孝